

「バイクと社会」 2

災害とバイク ーバイクの機動力が生きる場面ー

バイクの良い点のひとつに、機動力が高いことがあります。機動力とは、動きやすさです。詳しく言うと、バイクは車と同じようにエンジンで動くので、スピードが出るし、遠くまで行けます。また、車より小さくて軽いので、車で行けない細い道や悪い道でも通ることができます。こんなバイクの機動力が役に立つときが、災害です。

日本は、地震や台風、大雨や火山の噴火など、自然災害が多い国です。その中でも、特に地震のときには、バイクが役に立ちます。例えば、地震が起きて道路が壊れてしまったときのことを考えてみましょう。その道路は山の中にあって、山の奥の村に行けます。その村に行く道は一本だけで、ほかの道はありません。そんな大切な道が地震で壊れてしまいました。村にも、地震で困っている人がいるかもしれません。でも、車が通れません。そんな時にバイクが役立ちます。

バイクには、いろいろな種類があります。そのひとつに「オフロードバイク」というバイクがあります。オフロードバイクは、砂の道や山の中の道などの、きれいではない道でも走れます。災害が起こったときに、最初にオフロードバイクでその場所に行って、情報を集めたり、ひどい怪我の人を助けたりします。それから、その情報を使って救助の方法を考えるということが、実際に行われています。

たとえば、1995年の阪神淡路大震災のときです。阪神淡路大震災は、神戸や大阪を中心に起こった大きな地震です。その時は、道路が壊れたり、建物が倒れたり、火事が起こったりして、助けるための車がなかなか被災地（地震のあった場所）まで行けませんでした。いつもなら車で1時間ぐらいの場所も、その時は16時間かかったそうです。しかし、バイクは2時間で行けたそうです。この経験から、警察や消防など、いろいろなところで災害のためにオフロードバイクを使うようになりました。

そして、2011年に東日本大震災が起きました。東北地方から関東地方に起きた大きな地震です。この地震で、たくさんの建物や道路が壊れました。また、地震の後に津波が起こって、もっと多くの建物や道路が壊れました。そのときに、バイクを使って被害の情報を集めたり、食べものや薬を届けたりしました。道路が壊れて救急車が通れなかったので、救急隊員がバイクの後ろに乗って、けがをした人のところに行ったりもしました。また、電話もインターネットも使えなくなったので、バイクが電話の代わりになりました。警察や病院などの情報をバイクに乗って直接別の場所に伝えるに行ったそうです。さらに、地震のあとには、全国からバイクに乗った人たちがボランティアに来ました。バイクには交通渋滞がなくて、少ないガソリンで長く走れるので、車でボランティアに来た人よりも早く着いたそうです。

これが、バイクの機動力です。バイクの機動力は、いつもはそれほど注目されません。しかし、地震などの災害が起こったときには、とても役立ちます。最近、日本でも自然災害が増えています。これから

はますますバイクが社会の役に立つ機会が増えていくでしょう。

(1257 字)

(2020.12 Written by Toru YOSHIKAWA)

<参考資料>

- ・一般社団法人日本自動車工業会二輪車特別委員会（2015）『防災・災害対策で活動するバイク隊<事例集> 安全安心な社会作りに二輪車を活用する』



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.